

# 古文書倶楽部

【発行】  
秋田県公文書館  
2010.7  
第35号

企画展『戦国時代の秋田―秋田藩家蔵文書の世界―』  
期間 前期8月27日～9月26日 後期11月2日～11月30日

## 信長「天下布武」の朱印状！

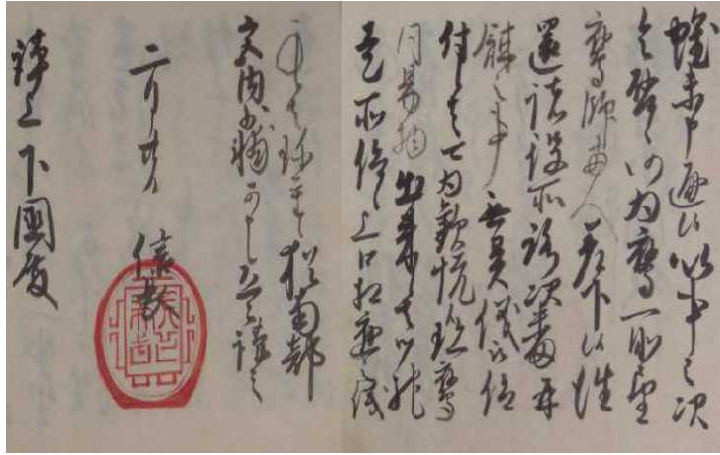
戦国時代の秋田は、群雄割拠の時代でした。

北部・中央には安東（秋田）氏・浅利氏、南部には小野寺氏・戸沢氏、由利地域には十二頭などが、また秋田地域を取り巻く周囲には、北に津軽氏、東に南部氏、東南に伊達氏、南に最上氏や上杉氏などがせめぎ合い、そこに天下統一の過程で織田信長や豊臣秀吉、徳川家康など

の人物が複雑に絡んできます。

秋田県公文書館には、戦国時代の秋田の歴史をひもとく資料として、およそ四千点の文書が残る『秋田藩家蔵文書』（資料番号A280-69）があります。佐竹氏の本領である常陸をはじめ関東地方の資料が大量に残されている一方、地元出身の秋田藩士の家に所蔵されていた文書も多く、戦国時代の秋田を知る上で貴重な資料となっています。

写真の資料は、有名な「天下布武」の朱印が押された織田信長の書状（写）です。文中の南部宮内少輔は安東（下国）<sup>しもくに</sup>愛季の家臣で、天正三年（一五七五）に熊野参詣に赴き、その途中で織田信長に鷹三据<sup>すえ</sup>を献上している事が秋田家史料（東北大学附属図書館蔵）からわかるので、同年の書状です。謹上という対等の礼の書状様式であり、この書状で信長は愛季に鷹を所望しています。東北の大名としていち早く信長と結んだ愛季の先見性が表れています。愛季は二年後の天正五年（一五七七）に男鹿の脇本城を築城し、同年六月一日付で信長から愛季宛に鷹進上の御礼の書状が来ているので、この間に信長に鷹を再び進上したと考えられます。東北の鷹は珍重されており、鷹好きの信長との交流をもとに、その影響力で東北での支配を強化しようとしたものと思われる。【佐藤 隆】



織田信長朱印状

資料番号 A280 - 69 - 51 - 9

今年の企画展は、県内唯一の中世資料集といえる秋田藩家蔵文書に記録された戦国時代の秋田へ皆様をご招待します。

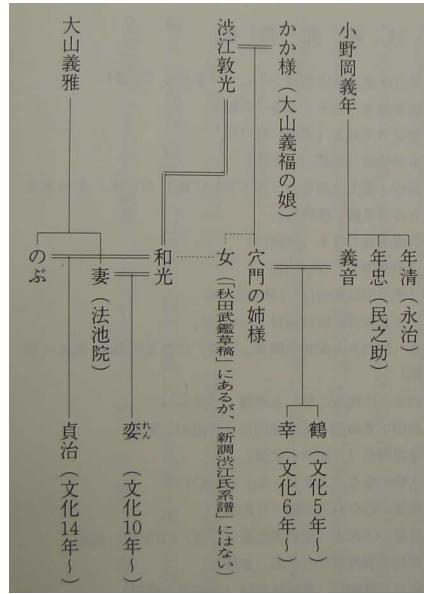
秋田藩家蔵文書では、最も古い建久三年（一九二）の將軍家政所<sup>まんどころくたしづみ</sup>下<sup>かみ</sup>文からはじまり、慶長五年（一六〇〇）の関ヶ原の戦いに至るまでの資料が数多く残されています。秋田の中世資料は、大永四年（一五四二）の細川高国書状をはじめとして、秋田に関係し、年代のわかる資料は一三六点到のぼります。具体的な資料としては、上記の織田信長朱印状をはじめ、豊臣秀吉や徳川家康・直江兼続等の資料、秋田関係では安東愛季や秋田実季、小野寺義道などの書状を取り上げます。

秋田藩家蔵文書をもとに、秋田の戦国時代に生きた先祖に思いを馳せてみては如何でしょうか。たくさんのご来場をお待ちしております。興味をお持ちの方は、閲覧室に家蔵文書の複製本を開架してありますので、直接手にとってご覧になり、「ピーをとる」こともできます。また、一点ずつの資料について「秋田藩家蔵文書目録」を作成していますので、詳細はそちらで確認してください。目録はホームページでもご覧いただけます。

## 古文書こぼればなし

### 教育パパ渋江和光の姿

いつの時代でも子弟教育に過熱気味な父親はいるようです。たとえば秋田藩の御相手番を延べ二十三年も勤めた渋江和光もその典型と言ってもよいでしょう。彼は入り婿で渋江本家を継いだために、周囲への気遣いに圧迫されることが多かったようです。とくに先代敦光の妻が「様」とその娘《穴門姉様》への異常なまでの気配りが日記の端々から窺えます。



和光を取り巻く人々

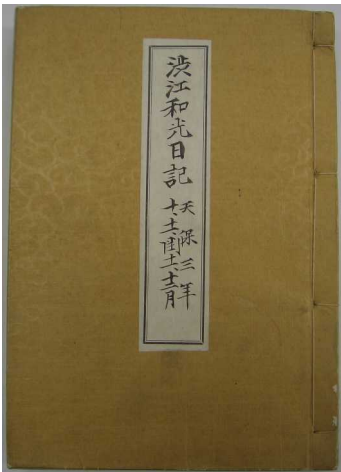
翌文政十年には学館祭酒中山菁莪（故人）の子息政吉に貞治の学問指導を依頼しています。一流の人物と接することで息子のレベルアップを図ろうとする父親の意気込みが伝わります。さらに教育熱はエスカレートして天保元年（一八三〇）登城して出仕のお目見えが実現しました。

いよいよ御試（役職就任のため学館での素読試験）を目指しての本格的な勉強が進められます。天保三年、素読御試の準備が整い、十二月九日受験と定まりました。ここでも父和光の世話ぶりが最高潮に達して、親しい荒川才吉に「下夕試致見 呉候様」と依頼して、試験座敷の様も本人に知らせてくれるよう手配しています。十二月九日の日記はこの御試の様で埋め尽くされています。無事合格につき、荒川家からも喜びの使者が来てめでたしとなります。

このような和光の言動は一見江戸時代でもなりふりかまわず息子を出世コースに乗せようとする点で、現代にも通じ、何か厳しさの中にほろ苦さも感じさせられます。

【加藤民夫】

それゆえ、文政二年（一八一九）に嫡子貞治が誕生したことで和光の気持ちは一転し、この子の教育に全力を注ぐことになって本家の継承者としての誇りを保てる心境に成ったのでした。さっそく貞治八歳の文政九年に「貞治へも今日より我等読書為 致候、学規教 申候」と述べ、渋江家の将来を担う人材を育てる計画を始めます。



「渋江和光日記」の資料番号は A289 - 1 ~ 98 です。翻刻本全十二巻もあります。

## 「県政映画」上映会のお知らせ

当館では、県の記念日の関連事業として、「懐かしき昭和30年代の秋田」と題し「県政映画」の上映会を開催します。



かつて、「県政映画」は県内各地の映画館で本編映画の幕あいに上映され、その時々県政ニュースやトピックスを報道しました。今回は、昭和三十一年の全国勤労者陸上大会(写真)、同三十三年の岩城町道川の観測ロケット実験、同三十四年の完工にあとひと息の県庁舎、同三十七年の十和田湖ひめすふ化ほかの映像を含む県政映画五本を上映します。ノスタルジックな昭和三十年代の秋田の映像をお楽しみください。

日時 八月二十九日(日)

一回目上映 午前十一時～十二時  
二回目上映 午後二時～三時

会場 秋田県公文書館 三階多目的ホール

上映映画

「県政だより」

昭和三十一年七月

「県政ニュース」

昭和三十三年七月

昭和三十四年十月

入場無料

昭和三十七年三月

昭和三十九年五月